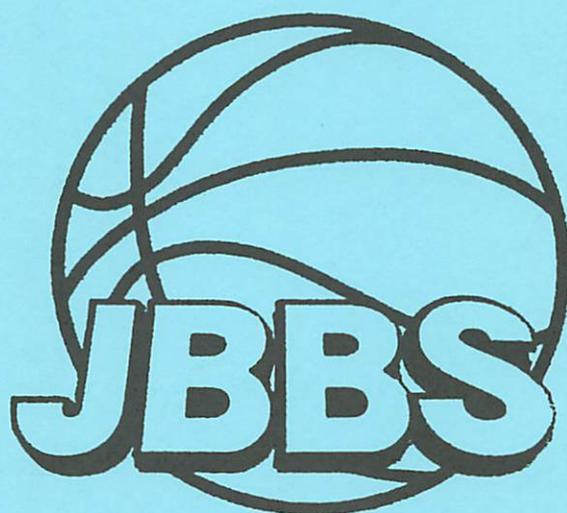


抜粋版

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No:32



2007年1月

日本バスケットボール振興会

次 目



オキザリにしたのはディフェンス
それともポジションのかぶる先輩?

フリキッタのはライバル
それとも昨日までの自分自身?

クグリヌケタのはブロック
それともレギュラーを狙う後輩の視線?

その一瞬の“キレ”がある。

fast-break feeling

WAVE DASH FF

ウエーブダッシュFF ¥15,225 (本体¥14,500)

- ◎足の力を反発力に変え、プレーにキレを生み出す軽量高反発の“APミッドソール”
- ◎フィット感と動きやすさを向上させる“ダブルラスティング構造”
- ◎ソールの高圧部にメッシュプレートを採用し、クッション性を大幅に向上させた“ミズノウエーブ”

●記載価格は、消費税込みのメーカー希望小売価格です。()内は消費税抜き本体価格です。

●www.mizuno.co.jp ● ☎ 0120-320-799



ミズノは、JBLスーパー
リーグのオフィシャル
サプライヤーです。

目 次

- 新春会長挨拶 愛知 和男 3
- 第15回アジア競技大会 広報部 4
- 2006インカレ 広報部 9
優勝は男子 東海大学、女子 日本体育大学
- インカレ雑感 並木 浩 12
- 熱狂的なバスケットファンがいた 広報部 13
- JOMOウィンターカップ2006 広報部 16
- オールジャパン 広報部 19
- 新リーグ名称は「日本バスケットボールリーグ」 広報部 23
- 会員だより
 - 「シルバーキッズの思い」 山本 嘉宏 24
 - 地域で中学生バスケットボールを育てる 中瀬 達雄 26
 - バスケットボールを支える人達 藤野 英雄 28
 - 片田舎から見た日本のスポーツ 須田 武志 30
 - そしてバスケットボール
 - 私のバスケットボール 松岡 英子 33
- 振興会の動き 35
- 訃報・事務局だより 36
- プラザ こぼればなし 37

第15回アジア競技大会

日本は女子3位銅メダル、男子は6位に終わる

[広報部]

平成18年11月23日から12月16日まで、カタールのドーハで開催されたアジア競技大会において、女子日本代表チームは3位決定戦で韓国を下して銅メダルに輝いた。

一方男子は決勝トーナメントに進んだものの1回戦目でイランに敗れ、順位決定戦へ回り6位に終わった。

【男子日本代表チーム】

スタッフ

スーパーバイザー	杉浦 良昭	日本協会
ヘッドコーチ	鈴木 貴美一	アイシン
アシスタントコーチ	田中 輝明	東芝
トレーナー	今井 丈	藤沢湘南台病院
マネージャー	宮崎 祐次	アイシン

選手

No	氏名	ポジション	身長cm	体重kg	年齢	所属
4	マッカーサー・エリック	C	197	105	38	アイシン
5	大野 篤史	SG	197	90	29	三菱電機
6	桜井 良太	G/GF	194	75	23	トヨタ自動車
7	佐古 賢一	PG	179	80	36	アイシン
8	柏木 真介	PG	183	78	24	アイシン
9	折茂 武彦	SG	190	77	36	トヨタ自動車
10	竹内 公輔	PF	205	90	21	慶應義塾大学
11	網野 友雄	SG/F	196	88	26	アイシン
12	渡邊 拓馬	SG	188	83	28	トヨタ自動車
13	青野 文彦	C	210	118	28	松下電器
14	伊藤 俊亮	C	202	98	27	東芝
15	竹内 譲次	F/PF	205	93	21	東海大学

【女子日本代表チーム】

スタッフ

ヘッドコーチ	内海 知秀	JOMO
アシスタントコーチ	梅寄 英毅	日本協会
トレーナー	中川 菜保	J・P・フィットネス
マネージャー	高橋 雅弘	JOMO
サブマネージャー	成井 千夏	JOMO

選手

No	氏名	ポジション	身長cm	体重kg	年齢	所属
4	磯山 絵美	SG	175	64	25	日立ハイテク
5	諏訪 裕美	C	183	84	20	JOMO
6	森本 由樹	SF	177	66	21	シャンソン

7	渡辺 由夏	SF	180	72	25	シャンソン
8	榊原 紀子	SF	175	69	28	トヨタ自動車
9	中川 聰乃	PF	180	65	19	シャンソン
10	内海 亮子	SG	175	69	20	JOMO
11	畑 恵理子	PF	181	77	23	富士通
12	吉田 亜沙美	PG	165	59	19	JOMO
13	大神 雄子	PG	170	63	23	JOMO
14	山田 久美子	C	192	118	27	JOMO
15	池田 麻美	PF	178	67	25	トヨタ自動車

男子チーム成績

男子は下記の20カ国が参加し、1次予選リーグ、2次予選リーグ、決勝トーナメントとなったため、多くの試合数と大会期間を要した。

<参加国>

カタール、韓国、イラン、ヨルダン、中国、レバノン、日本、カザフスタン、インド、マカオ、バーレーン、ウズベキスタン、パレスチナ、モンゴル、香港チャイナ、シリア、アフガニスタン、チャイニーズタイペイ、アラブ首長国連邦、クエート

<1次リーグ成績>

Aグループ	①位	バーレーン	②位	マカオ	③位	インド
Bグループ	①位	ウズベキスタン	②位	モンゴル	③位	パレスチナ
Cグループ	①位	シリア	②位	アフガニスタン	③位	香港チャイナ
Dグループ	①位	カザフスタン	②位	アラブ首長国連邦	③位	クエート

<2次リーグ成績>

Eグループ	①位	カタール	②位	ヨルダン	③位	イラン
	④位	韓国	⑤位	シリア	⑥位	バーレーン
Fグループ	①位	中国	②位	日本	③位	チャイニーズタイペイ
	④位	カザフスタン	⑤位	レバノン	⑥位	ウズベキスタン

<2次リーグ日本チーム成績>

日本は2次リーグから登場、中国とカザフスタンに敗れ3勝2敗となり、同じ3勝2敗同士のカザフスタン、チャイニーズタイペイと並んだが、得失点率で2位となった。

12/2 日本 85-75 チャイニーズタイペイ

日本は序盤シュートが入らず苦戦したが、第3ピリオドに柏木、エリックの活躍で逆転に成功、第4ピリオド終了間際に佐古の3Pで試合を決め、初勝利を飾った。この試合日本は、柏木16得点、佐古15得点とガード陣の活躍が目立ち、エリックの12得点10リバウンドと合わせベテランが奮起。

12/4 日本 78-67 レバノン

日本は、折茂23得点リバウンド6、竹内(公)14得点リバウンド9、桜井11得点リバウンド6、網野10得点とフォワード陣の活躍で、格上のレバノンに1度もリードを許すことなく快勝し、2連勝となった。

12/6 日本 75-56 ウズベキスタン

第1ピリオドは互角だったが、第2ピリオドからリバウンドを確実に奪って得点を重ね、第3ピリオドに7点差まで追い上げられたものの、折茂の連続得点で再び点差を開き開幕3連勝を飾った。

折茂17得点、竹内(公)15得点リバウンド12、柏木13得点アシスト7などが光る。

12/8 中国 94-68 日本

高さで優る中国がボールを支配し、インサイドやアウトサイドから着実に得点を重ねた。対する日本は必死に抵抗を試み、一時的には1桁の得点差まで詰め寄るが、インサイドで加点され再び突き放された。この試合日本は若手の活躍が目立ち、竹内(公)12得点リバウンド4、桜井18得点リバウンド3、伊藤7得点リバウンド5などが目立った。

12/10 カザフスタン 77-72 日本

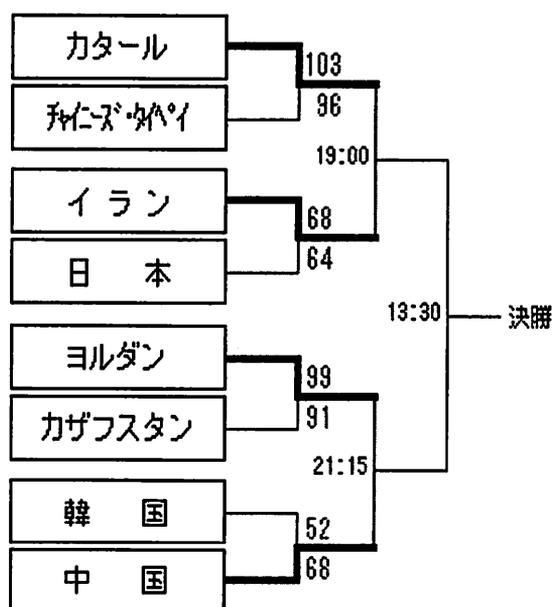
第1ピリオド3点リードした日本だったが、第2ピリオドに日本の得点が止まったところで相手に連続3Pを決められて8点リードを許す。第3ピリオド以後がほぼ互角の戦いだったことを顧みると、第2ピリオドのブレーキが痛い。センター青野13得点、竹内(公)16得点リバウンド8と長身選手が活躍。

これで日本は3勝2敗で2次リーグ2位が確定、決勝トーナメントでEリーグ3位のイランと対戦することになった。

<決勝トーナメント日本チーム成績>

1-8位決定戦

12/12 (火) 12/13 (水) 12/15 (金)



決勝トーナメント1回戦で日本はイランと対戦、リバウンドを圧倒的に奪われながらも少ないチャンスをもたして互角に戦い、第4ピリオドに5点のリードを奪ったがその後逆転され、結局64対68で敗れた。この結果、日本は準決勝へ進むことができなかった。5～8位決定戦では、1回戦でチャ

点し互角に戦ったが、後半外角からのシュートが入らず、徐々に引き離された。特に第4ピリオドは開始6分間で吉田のシュート1本しか決められず、10分間で8点の得点で、追いつけることができず結局59対70で敗退した。

この試合、日本の3Pの成功率は15%、2P成功率48%、フリースロー成功率25%であったことなどがその不調ぶりを象徴している。

< 3位決定戦 >

12/14 日本 74-70 韓国

3位決定戦は韓国と対戦、日本は第1ピリオドから激しいプレッシャーディフェンスで韓国の3Pシュートを封じ込め、渡辺の3Pや山田のインサイドで得点を重ね、一時8点のリードを奪ったが、韓国もインサイドで対抗し前半は39対36の日本3点リードで終わる。

後半は韓国も3Pシュートが入りだし、日本も外角シュートで対抗、一進一退の攻防が続いたが、第4ピリオド残り1分渡辺の5本目となる3Pによって73-70と一歩抜け出す。その後は執拗なディフェンスで韓国に3Pを決めさせず、最後は4点差で勝って3位銅メダルを獲得した。

この試合日本は外角陣の活躍が目立ち、内海24得点、渡辺15得点、大神15得点リバウンド9、榊原10得点とオフェンスも冴えて追いすがる韓国を振り切った形。

チャイニーズタイペイに不覚を取って決勝進出を逃したものの、三位決定戦で韓国を破って銅メダルに輝いた、日本代表チームの内海ヘッドコーチは次のように話している。

内海ヘッドコーチ談



予選リーグの中国戦で相手の高さを意識して戦った影響が、チャイニーズタイペイ戦で悪い方へ出てしまったと反省しています。外角シュートの思い切りが悪く確率も悪かったです。チャイニーズタイペイは180cm台のプレイヤーが二人いて、インサイドからの攻撃がうまく、この二人を抑えるのはなかなか容易なことではないと思いました。

今のチームには国際ゲームの経験者が少なく、アテネオリンピックに出場したのは大神選手だけですので、これから国際ゲームの経験をつまなければなりません。

しかし若いチームだけに一旦調子に乗ると試合運びも積極的になり得点も伸びます。韓国戦ではそういった良い面が現れ、チャイニーズタイペイ戦では悪い面が出た感じです。

今回、メダルの色はともかく、必ずメダルを取って帰ろうと意思統一して戦ったアジア大会でしたので、一つの目標が突破できた大会でした。

Wリーグが終わりましたらチームを鍛えなおして、今年韓国で開催される北京オリンピックのアジア予選で、なんとしてもオリンピック出場権を勝ち取りたいと思います。

以上

2006インカレ

優勝は男子 東海大学、女子 日本体育大学

[広報部]

男子第58回、女子第53回全日本学生バスケットボール選手権大会（インカレ）が、去る11月19日から11月26日まで代々木第一体育館で開催された。

男子は昨年に引き続いて東海大学が2年連続2回目の優勝、女子は日本体育大学が3年ぶり19回目の優勝を飾った。（別表勝ち上がり表参照）

今期は代々木第二体育館が改修工事で使用できないため、広い第一体育館での開催となったが、いつにも増して多くの観客が訪れて会場は盛り上がった。特に男子の決勝戦には5000人を超える観客が集まり、スタンド席は満員の状況、これが代々木第二体育館だったら到底収容しきれない観客数となり、結果的には第一体育館で開催したことが功を奏した感じ。

竹内兄弟の対決という注目された部分もあったが、それだけでなく学生バスケの人気が増してきたようであり、バスケット界においては喜ぶべき現象。しかしながら地上波によるテレビ放映はなく、一般的に更なる人気上昇を図るためには、まだまだ努力が必要と思われる。

男子では竹内譲次選手を擁する東海大学が、選手層の厚みを生かして安定した戦いぶりで決勝まで進み、一方では竹内公輔選手を擁する慶應義塾大学が、準決勝で日本大学を降して決勝戦へ進出した。決勝戦は竹内兄弟の対決となり、両校とも譲らぬ戦いとなったが僅かに優る東海大学が3点差で慶應義塾大学を押し切った。

女子は優勝候補の一角であった愛知学泉大学が、2回戦目で早稲田大学に敗れるという波乱があり、第二シード校の鹿屋体育大学が準々決勝で大阪人間科学大学に敗れるという結果が出たりした。優勝した日本体育大学は、1回戦から安定した戦いぶりで他を寄せ付けず、決勝戦でも桜花学園大学に15点の差をつけて堂々とした戦いぶりだった。

男女とも決勝戦の後、表彰式が行なわれたが個人表彰は下記の通りとなった。

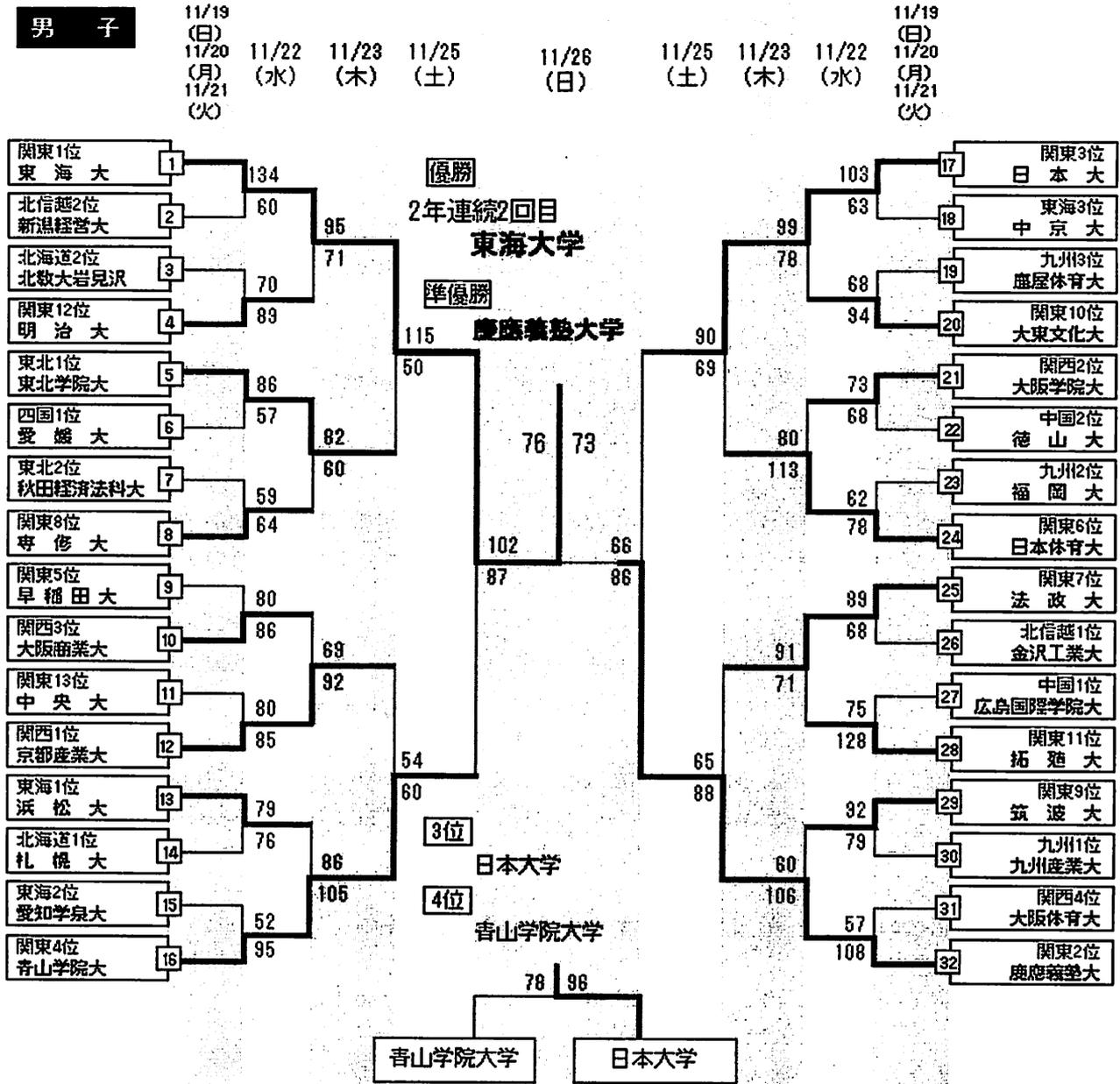
[男子]

最優秀選手賞	竹内 譲次	東海大学	No.15
敢闘賞	竹内 公輔	慶應義塾大学	No.7
優秀選手賞	井上 聡人	東海大学	No.10
	石崎 功	東海大学	No.00
	酒井 泰滋	慶應義塾大学	No.4
	菊地 祥平	日本大学	No.4
	岡田 優介	青山学院大学	No.4

[女子]

最優秀選手賞	吉田 沙織	日本体育大学	No.4
敢闘賞	名木 洋子	桜花学園大学	No.4
優秀選手賞	市野 育代	日本体育大学	No.15
	石川 麻衣	日本体育大学	No.11
	小松 さやか	桜花学園大学	No.6
	櫻田 佳恵	筑波大学	No.5
	川原 麻耶	大阪人間科学大学	No.15

男子勝ち上がり表



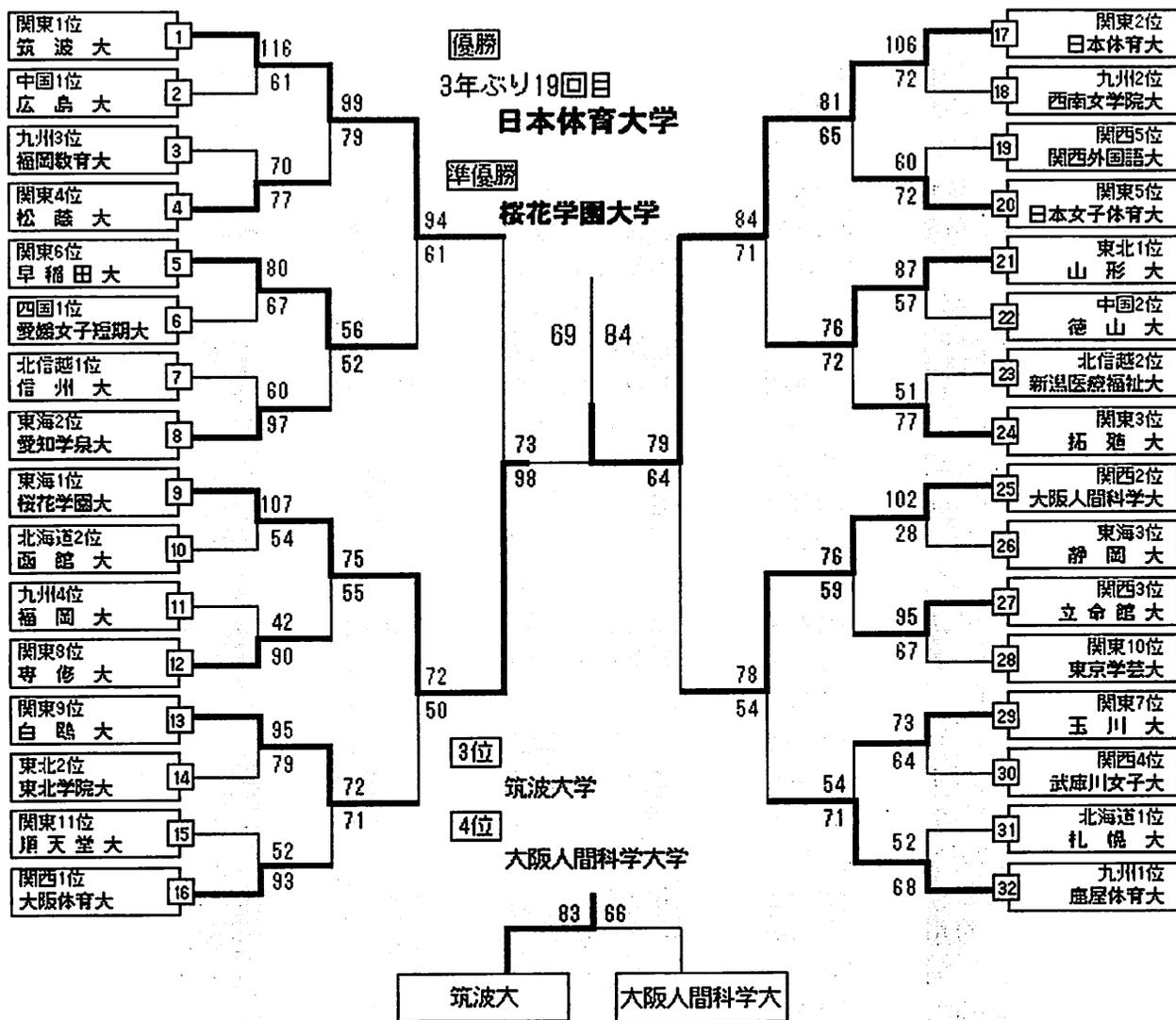
以下の順位

- | | | |
|-----|--------|------|
| 第5位 | 法政大学 | 関東7位 |
| 第6位 | 京都産業大学 | 関西1位 |
| 第7位 | 日本体育大学 | 関東6位 |
| 第8位 | 東北学院大学 | 東北1位 |

女子勝ち上がり表

女子

11/20 (月) 11/22 (水) 11/23 (木) 11/24 (金) 11/25 (土) 11/24 (金) 11/23 (木) 11/21 (火) 11/19 (日)



以下の順位

- | | | |
|-----|--------|------|
| 第5位 | 山形大学 | 東北1位 |
| 第6位 | 鹿屋体育大学 | 九州1位 |
| 第7位 | 早稲田大学 | 関東6位 |
| 第8位 | 白鷗大学 | 関東9位 |

2006年インカレ雑感



並木 浩

2006インカレは、竹内兄弟をはじめとする2m超級の高さの戦いであつたし、また、「今年こそは」の念に燃えた4年生の戦いでもあつた。下馬評どおり4強には、関東大学リーグの4強が勝ち上がったが、それぞれのチームの4年生は、竹内譲次(東海)、井上(東海)、石崎(東海)、竹内公輔(慶應)、酒井(慶應)、太田(日大)、菊地(日大)、岡田(青山)、など高校時代から相手を良く知り尽くし、自らライバル意識をむきだしに、4年間練習に励み全精力を尽くしたものと思われる。この集大成が2006年インカレだつた。

このほか、菅谷(京産)216cm、ママドウ(浜松)208cm、など長身選手の活躍も興味のひとつであつたが、一方ルーキーの活躍も目立った。決勝戦での西村(東海2年)、古川(東海1年)、小林(慶應1年)、の今後も楽しみだし、劣勢の青山の小林もそれに加えたい。

特に竹内(譲次)、井上のツインタワーがいる東海大学に対し、竹内(公輔)、酒井のインサイドを持つ慶應義塾大学の決勝対決は、5000人余りの観衆を呼び込んで、沈滞気味だつた学生バスケットに大きな歴史を刻んだ。

この激突はお互いに「今年こそは」の念が特に強い2校の対決となり、前期の西村、古川と小林(慶應)の活躍もインサイドの対決とともに観衆を大いに沸かせた。結果は選手層の厚い東海大学が僅差の勝利を収めたが、最後まであきらめずに相手を追い詰めた慶應義塾大学の伝統である、粘り強い戦いの姿勢に対する観衆の拍手も多かった。

概して云えばディフェンスは両校伯仲、オフェンスもそれぞれ特色を生かして伯仲、選手層が厚く、特にガード陣の層の厚さが東海大学の二連覇をもたらした。

ここまですれば1月のオールジャパンで、今回の4強をはじめとする学生勢がスーパーリーグの一角を崩してもらいたいし、スーパーリーグのパワーとスピードに負けない能力をもって、学生諸君が力を発揮してもらいたいものである。

今回代々木第二体育館が改修工事で使用できないため、会場を第一体育館に移しての開催となり、収容力は申し分ないもののアリーナがガラとして臨場感が乏しいと感じがした。

その点第二体育館は収容力こそ第一に劣るものの、長年見慣れたバスケットのメッカとしてふさわしい場所のように思える。2005年インカレは第二体育館だつたが、その臨場感が観衆と一体化してムードを盛り上げる効果はあつたのではないだろうか。

[振興会常任理事]

熱狂的な学生バスケットファンがいた

[広報部]

バスケットボールを観戦するファンはかなりの数に上ると思われるが、学生の試合を年間で70試合以上観戦するという熱心なファンに、このほどお目にかかることができた。

そのお方は、東京都世田谷区に在住されている、坂元健一さん尚子さんご夫妻で、学生では特に東海大学のファンで、東海大学の追っかけをやっているという。娘さんは日女体大でバスケットボール部に入っており、息子さんは高校3年生でバスケットの経験は少々だが、バスケット事情は特に熟知しているというバスケットファミリー。

以下バスケットボールの魅力はどういうところにあるのかなど、その感想を聞いてみた。

—— バスケットボールを観戦するきっかけはどんなことだったのでしょうか？

最初は長女と次女がミニバスを始めたので、何回か試合を見に行ったことからでした。その後しばらくして、娘が都立駒場高校でバスケットをやっていた高校2年生のとき、たまたまウインターカップの試合が駒場高校の体育館で行なわれ、娘の学校で開催されるということもあって見学に行きました。そこで東海第四高校と高崎商業の試合を見て、東海第四の阿部選手が気に入ってから、すっかりバスケットファンになりました。特に息子の阿部君に対する思いは並々ならぬものがあって、それから阿部君を含めて学生バスケットボールの追っかけファンになりました。

—— 東海大学のファンだそうですが、どうして東海大学を？

ウインターカップをはじめ観戦した翌年だったと思いますが、東海大学の主将になった島君というプレイヤーが、都立駒場高校出身で娘の先輩にあたるのです。前述の阿部選手を含めて東海大学で活躍していることを知り、それから東海大学のファンになりました。

—— 東海大学が気に入ったのはどんなところですか？

バスケットに対する取り組み方が非常に真面目だと思っています。また、陸川ヘッドコーチの選手起用も多彩で、都度いろいろな選手を見ることができます。リーグ戦のとき平塚の東海大学へ観戦に行きましたが、観客を通じて地域に対してもいろいろと努力して活動していることがよくわかりました。それとやはり最近強いということも魅力ですね。

—— ご家庭でバスケットのことが話題に上ることは如何ですか？

家族の中で話題になることはバスケットに尽きますね。特に息子は詳しくて、話し始めると時間が足りなくなるくらいで、勝敗はもちろんのこと、個々の選手の活躍状況や試合の経過など、あれこれとバスケット談義をやっています。東海大学に竹内譲次選手がいますが、当然のことながらサインを貰ってきて、同じ色紙に慶應の竹内公輔選手のサインもいただいていると云った具合です。

竹内兄弟は全日本に選ばれてから一段と上手になったようですし、これからも楽しみに期待できそうですね。

—— 今年、日本で男子の世界選手権が開催されましたが、ご覧になりましたか？

開幕まで心待ちにしておりましたが、チケットを確保することができずテレビ観戦でした。

会場は盛り上がっていたようですが、世間一般的には今一といった感じでとても残念に思いました。テレビももっと多くの試合を地上波で放映して欲しかったですね。バスケットボールのワールドカップですので、いい試合はゴールデンタイムに放映してしかるべきだと考えます。たとえばサッカーやスケートなど他の競技の世界大会はゴールデンタイムに放映しているのに、バスケットだけはやってくれない。どうしてバスケットはテレビ放映が少ないのでしょうか。

高校生のスポーツでも野球の甲子園、サッカーの国立、春のバレーなど、テレビでよく放映されていますが、バスケットは当初放映されていたウインターカップも最近はテレビ放映がありません。テレビで放映されることはそのスポーツの人気アップにつながりますから、なんと少しでもバスケットボール放映の機会を増やしてもらいたいと思います。

—— 学生のインカレも一時はテレビ放映がありましたが、最近はずっぱりですね。

ファンとして必ずしも会場に足を運べないときもあるので、テレビは是非お願いしたいですね。今年のインカレは代々木第一体育館ですが、会場が広すぎて臨場感的には観戦しにくかったです。バスケットはやはり代々木第二がいいと思います。代々木第二体育館だと試合中に選手の息づかいまでわかりますので、観に行く甲斐があります。第二に行くときは一番見やすい席を決めてあって、息子ともどもその席を確保することに努力しています。

サイドのオレンジシートも良い席と思いますが、私たちにとっては試合が良く見える秘密の特等席があるのです。代々木第二では年配の方々が熱心に観戦している人も結構多く見かけます。

—— 娘さんは日女体大に行かれていると聞きましたが、選手としてやっているのですか？

さあどうでしょうか、何をどの程度やっているかはあまり親に言わないですね。ただミニバスの審判などにはよく行っているようです。偶然のことなのですが息子が高校2年生のときの私学ブロック大会の試合で、たまたま娘が審判だったようで、息子はわからなかったらしいのですが、審判をやった娘の方は驚いていました。娘は選手じゃなくても何らかの形でバスケットに関わっていたい気持ちが強いようです。

—— 最近女性審判の活躍が目覚しいですが、将来上級審判を目指して頑張ってくださいですね。

見ていると確かに女性審判は増えているように感じます。女性の試合はすべて女性審判が担当するくらいになったらいいと思います。審判といえばまずルールのことがありますが、バスケットのルールはよく変わりますね。観ている方としてはたびたび変わるルールについていけないこともあります。

最近変わったルールで、ジャンプボールがなくなってしまったのは物足りないところです。特に女子の場合はボールに対して飛び込むルーズボールと、その後のジャンプボールが楽しみだったのに、ジャンプボールがなくなったせいか、ルーズボールも少なくなったように感じます。ルール変更の背景もあるのですが、観ている人はいろいろな感じ方をしているわけですので、一概に変更が良かったとは言えない面もあるのではないのでしょうか。

—— バスケットについてかなり詳しいようですが、ご夫妻のバスケットのご経験は如何でしょうか？

主人は中学、高校と6年間バスケットボール部だったそうで、高校時代鹿児島県で準優勝

したり優勝したりしたこともあったようです。バスケットボールは観ているだけでも結構楽しいもので、試合中の選手と審判の駆け引きなども面白いですし、選手個々の動きなど視点はいろいろあります。いい試合を観たあとはすがすがしい気持ちで家路へ向かうことができます。

—— 本日はありがとうございました。

昨年11月に開催されたインカレで東海大学が2年連続優勝を果たしたが、インカレについて坂元さんから以下のような感想をお寄せいただいている。



坂元さんご夫妻

今年のインカレは、息子と私たちにとりましては特に思い入れの深い、大学4年生選手にとって、最後の大舞台とあって、今までで一番熱がこもり力が入った大会でした。

大好きな東海大学の阿部君はもちろんですが、1年生のときから華のあった彼らの雄姿をしっかりと目に焼き付けておこうと、大会の始まる前から息子と話しておりました。

特に決勝戦は、おそらく多くの人たちが待ち望んでいた、竹内兄弟の対決が実現し、その名にふさわしい実に見ごたえのある一戦でした。ずっと応援を続けてきた東海大学の二連覇は見事であり嬉しい限りですが、できることなら慶應にも！という複雑な想いも胸のどこかにありました。

この2校に限らず、私たち親子に強烈な印象を残して大学バスケットを卒業していかれる4年生の皆さんには、一ファンとして心からお礼を申し上げたい気持ちで一杯です。

とても美しい姿でした。

以上

REUSE を考える

[環境の総合情報商社]

“地球にやさしく” どこかで見たような聞いたような言葉。

あなたはリサイクルに関心を持っていますか？

“地球環境をこれ以上汚したくない”これが私たちの願いであるとともに、人類に課せられた大きな課題です。

当社は携帯電話やパソコンなど、鉄を除いた金属（レアメタル）の回収、再生（リサイクル）を主な業務にしている会社です。

日本のバスケットボールの振興、発展を応援します。

リユース・ビズテック 株式会社

〒333-0842

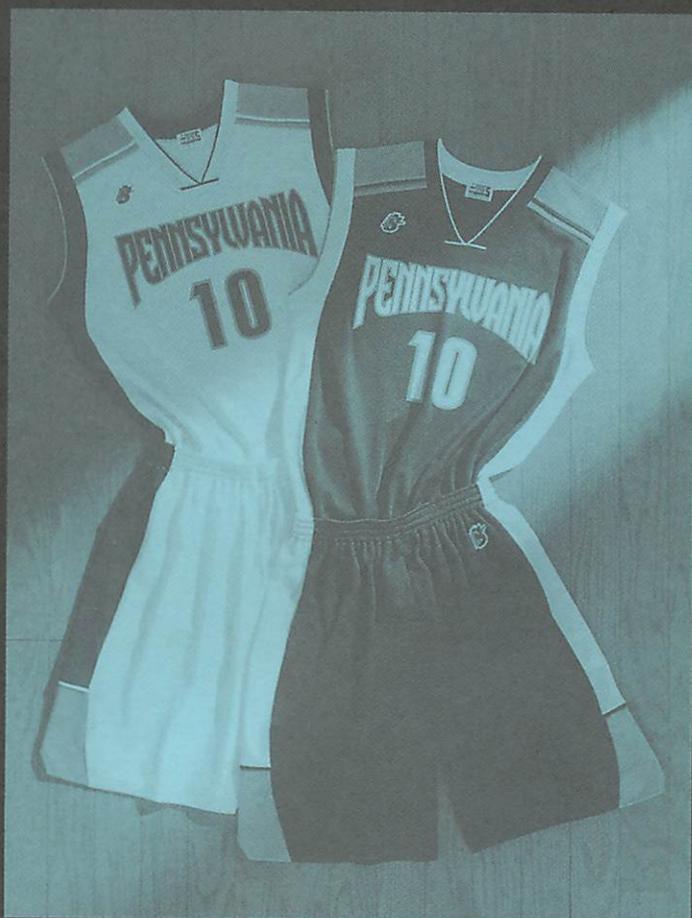
埼玉県川口市前川2-33-1

TEL 048-263-7023

FAX 048-269-8009

代表取締役 永野 鉄洋

DUPER®



WE ARE A SPECIALIST IN BASKETBALL GOODS.

DUPER FIVE CO., LTD.
3-5, TATEKAWA 3-CHOME, SUMIDA-KU, TOKYO 130-0023 JAPAN
TEL. TOKYO 03(3632)7045 FAX. TOKYO 03(3632)8327
URL: <http://www.duper.co.jp> E-mail: info@duper.co.jp

●2006—2007デューパーNEWカタログをご希望の方は、住所、氏名、年齢、TEL、職業を明記し、切手390円を同封の上、上記住所までお申込み下さい。